

兵庫県たつの市（国内9例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和4年11月13日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は周辺を田畑に囲まれており、付近には川が流れていた。
- ② 農場付近において、スズメやハシブトガラスが観察されたが、衛生管理区域内では観察されなかった。
- ③ 農場の周辺には池が複数あり、農場から約2km以内の池にはヒドリガモ389羽、コガモ91羽、マガモ73羽など合計約700羽のカモ類が観察された。
- ④ 当該農場には、成鶏舎及び大雛舎の計2鶏舎があった。成鶏舎は2階部分の通路で繋がっている東西2棟で構成されており、3段のひな段ケージが14列ある高床式の開放鶏舎であった。また大雛舎は2段のひな段ケージが2列ある低床式の開放鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、農場全体で平均して1日当たりの死亡鶏は5羽程度が分散して認められる程度であったとのこと。
- ② 発生鶏舎は高床式開放鶏舎の成鶏舎で、11日に列中央付近下段ケージにおいて同一ケージ内の2羽（177日齢）が死亡し、翌日12日に前日死亡鶏が確認されたケージに隣接するケージにおいて計3羽の死亡が確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 当該鶏舎において、産卵数の低下等の異状は認められなかったとのこと。
- ④ 疫学調査時において、発生ケージ付近に衰弱個体が2～3羽確認されたが、その他の鶏に異状は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では作業従事者6名が勤務しており、内訳は鶏の飼養管理業務に従事する正社員3名と、集卵作業のみを行うパート職員3名とのこと。
- ② 飼養管理者は鶏舎ごとの担当は決められていないとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場入口にはロープのゲートがあり、立入禁止看板が設置されていた。飼養管理者によると、日常的に石灰散布を実施していたとのこと。
- ② 飼養管理者によると、車両が農場に入る際は、農場入口のゲート付近に設置された蓄圧式噴霧器で車両消毒を実施しているとのこと。
- ③ 従業員は出勤後、農場内専用の靴に履きかえ、私服の上に作業着を着用して作業に従事しているとのこと。鶏舎に入る際には、手指消毒を実施しているが、靴や衣服の交換は実施していなかったとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、従業員以外の来場者はほとんどいないが、来場者用の農場内専用衣服及び靴を準備しているとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎には、1階部分に石灰入りの踏込み槽が設置されていたが、すぐ横の外階段を上がった2階の鶏舎入口には踏込み消毒槽の設置はなかった。
- ⑥ 当該農場は毎月約3,000羽の大雛を導入しており、120日齢で成鶏舎に移動させるとのこと。鶏舎全体でのオールイン・オールアウトは実施せず、毎月列ごとに出荷しており、直近の廃用出荷は1か月以上前とのこと。
- ⑦ 当該農場の鶏舎は自然換気を行っており、必要に応じてファンを使用するとのこと。また、温度調節はカーテンの開閉により実施するとのこと。鶏舎の側面の外側

には2×2cm程度の防鳥ネットがあり、破れているところもあった。カーテン内側には3×6cm程度の金網が設置されていた。

- ⑧ 集卵室は成鶏舎の一角に設置されており、鶏舎エリアとの明確な境界はなく、靴や衣類の交換は行われていなかった。集卵用コンベアは屋内のみを走行しているが、コンベア下の1階天井部分が一部破損し、屋外にむき出しになっていた。
- ⑨ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して自動で給餌する構造となっていた。
- ⑩ 飼養鶏への給与水は井戸水を使用しており、消毒等は実施していないとのこと。
- ⑪ 高床式鶏舎の1階部分に堆積した鶏糞は、月に数回重機で搬出し、トラックで農場から約2km離れた自場の堆肥置場に運搬し、コンポストで処理していたとのこと。調査時、鶏舎内の一部分の鶏糞は1.5m程度の高さまで堆積していた。
- ⑫ コンポストと堆肥置場の入口には防鳥カーテンがあったが上部は一部開口していた。堆肥は、近隣の耕種農家に販売しているとのこと。
- ⑬ 飼養管理者によると、健康観察は毎日1回実施しており、死亡鶏は床下に落とし、鶏糞の搬出時に回収していたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎開口部には金網と防鳥ネットが設置されていた。金網に目立った破損は認められず、鶏舎内で野鳥を見かけることはないとのこと。農場周囲ではカラスのほか、シカやキツネを目撃することがあるとのこと。
- ② 農場管理者によると、数年前まではイタチやキツネによって鶏舎1階部分の金網を破壊されることがあったが、2年前に鶏舎壁面下部にトタンを設置して以降は被害がなくなったとのこと。鶏舎開口部や壁に一部隙間や穴が確認された。
- ③ 飼養管理者によると、ネコを鶏舎内で日常的に目撃するとのこと。調査時、鶏舎通路にネコの糞及びネコを複数確認した。また、鶏舎内でネズミを見かけることはほとんどないとのことだが、調査時には鶏舎内でネコがネズミを捕獲する姿が確認された。

(以上)